

医学系研究に関する情報公開および研究協力のお願ひ

聖隷浜松病院では、当院の臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意思であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心下さい。

研究課題名	足関節後果骨折に対する Lateral Trans-Malleolar Approach の有用性に関する後方視的研究
研究責任者	足の外科 滝正徳
研究実施体制	【研究責任者】聖隷浜松病院 足の外科 滝正徳 【研究分担者】聖隷浜松病院 整形外科 鈴木浩介 吉水隆貴
研究期間	臨床研究審査委員会承認日 ～ 2021年7月31日
対象者	2013年4月から2020年3月までの間に聖隷浜松病院 足の外科、スポーツ整形外科に足関節骨折で入院、後果骨折を Lateral Trans-Malleolar Approach で手術された方。
研究の意義・目的	足関節の後果骨折はアプローチが困難なため最も難渋する type の骨折です。本骨折に対して当院では腓骨を反転する Lateral Trans-Malleolar Approach (LTA) という方法を使用しています。この方法は、侵襲はやや大きいですが、関節内の骨折を直接観察しながら直すことができるため、予後を左右する関節面の修復をより正確にできることが利点とされます。今回、後方視的に調査してそのメリット、デメリットならびに臨床成績を明らかにしたいと思います。
研究の方法	2013年4月から2020年3月までの間に聖隷浜松病院 足の外科、スポーツ整形外科において後果骨折を LTA で手術された方のカルテから後方視的にデータ収集する。 【除外基準】術前後の Xp、CT 画像を有しない方。経過観察が1年に満たない方。 【予定症例数】20例 【症例数の設定根拠】当院で対象患者となる見込み症例数を設定した。
個人情報の取扱い	本研究で利用する資料や情報、記録からは、直接ご本人を特定できる個人情報は削除した上で、研究成果は学会や雑誌等で発表されます。取り扱う情報は、厳密に管理し、外部に漏洩することはありません。なお、個人情報の利用目的等について詳細をお知りになりたい場合は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
個人情報開示に係る手続き	個人情報開示の手続きについては、「問い合わせ窓口」にご相談下さい。
資料の閲覧について	ご要望があれば、開示可能な範囲で、この研究の計画や方法について資料をご覧いただくことができます。ご希望の方は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
問い合わせ窓口	聖隷浜松病院 足の外科 (氏名) 滝正徳 TEL:053-474-2222(代表) 足の外科外来 9:00~17:00 平日